

平成16年 3月発行

発足の経緯

昭和48年 北総線の事業認可後、昭和58年着工、平成3年3月京成高砂駅に現状の平面乗り入れで全線開通となりました。

その間、地元では高砂地区開発協議会(旧)を結成発足し、高架乗り入れの運動を進めましたが、実現に至りませんでした。

平成13年12月、新聞紙上等に成田新高速鉄道乗り入れの報道を受け、高砂地区開発協議会を新しく発足させ、高砂駅周辺の踏切解消に向けての広範囲な運動を推進することとなりました。

活動報告

- 平成14年2月 発起人会を開催。高砂地区開発協議会が9団体にて発足。
- 6月5日 石原都知事が高砂駅周辺の踏切視察を機に高砂地区開発協議会より踏切解消の要望書を手渡す。
- 8月31日 高砂中学校において踏切解消に向けての総決起大会を開催。500余名の参加を得る。
- 高砂地区町連並びに柴又地区町連の協力を得て署名運動を展開し、29,761名の署名を得る。
- 11月21日 東京都議会に署名簿と請願書を提出し、翌日葛飾区議会に請願書を提出した。
- 12月10日 葛飾区議会のまちづくり・交通対策特別委員会において請願についての意見陳述を求められ、役員代表が意見を述べる。
- 上記の請願が12月13日葛飾区議会の本会議で、また15年3月7日東京都議会にて双方共採択された。
- 15年3月 高砂駅周辺の立体化事業に合わせて駅周辺の再開発を同時進行で進めるべく勉強会を開始し、高砂駅周辺の再開発委員会を発足させる。

- 12月15日 葛飾区都市計画課の協力を得て数回の勉強会を重ね、その一環として京成船橋駅周辺の再開発、立体化事業の現地見学会を実施。協議会より9名、区都市計画課より6名が参加、京成側より3名が出席して駅周辺の再開発並びに立体化工事についての説明を受け、現場を視察した。
- 16年1月13日 東京都の「踏切対策基本方針(中間のまとめ)」について東京都都市計画局に「成田新高速鉄道が運行開始されると、更に踏切が遮断され多くの問題点がある」ことを指摘する意見書を提出した。

今後の活動方針

京成高砂駅周辺の立体交差化事業を実現するために、街づくりの再開発運動を推進すると共に、江戸川地区との連携を深め、また関係諸団体との連絡を密にし、この運動が早期に実を結ぶ様一層の努力をするものである。

高砂地区開発協議会	会長	半沢勝正
参加団体	会長	半沢勝正
高砂南町会	会長	山崎正明
高砂北町会	会長	本田幸一
高砂田地自治会	会長	星野伊三郎
住吉自治会	会長	加藤和男
高砂南町商友会	会長	北村貞夫
高砂商店会	会長	松山伸也
エビス通り商店会	会長	横尾昇三
住吉商店会	会長	石崎孫三郎
高砂サービス通り商店会	会長	
高砂駅周辺の再開発委員会	委員長	石川貞夫
高砂地区開発協議会	事務局	関根雅英
〃	〃	小関正文